

何ができるのか? どうして安全なのか?

ピエゾのメカニズムを徹底解析

ピエゾ・エレクトリックデバイス「サージボーン」を使用した各種テクニック


**コーディネーター／
春日井 昇平**

 東京医科大学
 歯学部歯科学科
 インプラント・口腔再生医学 教授
 歯学部歯科学科
 インプラント・口腔再生医学 教授

Sohn Dong-Seok

 東京医科大学
 歯学部歯科学科
 インプラント・口腔再生医学 教授
 歯学部歯科学科
 インプラント・口腔再生医学 教授

長谷川 嘉昭

 東京都中央区
 長谷川歯科医院 院長
 日本歯周病学会
 認定歯周病専門医・経験員
 日本矯正歯科学会
 認定医・指導医

飯田 吉郎

 ナディアパークデンタルセンター
 院長
 名古屋大学大学院医学研究科
 歯学部歯科学科
 歯学部歯科学科

洪(徳山) 性文

 東京都武蔵野市
 吉祥寺セントラルクリニック
 大塚市大塚市 プリデンタルクリニック
 日本歯科大学歯学部
 SBC(歯学部歯科学科)講師
 大阪SBC(歯学部歯科学科)講師

2011年7月24日(日) 10:00~17:00

会場/秋葉原UDX(GALLERY) 東京都千代田区外神田4-14-1 TEL.03-3254-8421

通訳/黄 炳珍

 東京医科大学(現東京大学医学部)卒業
 元外科学、岡山大学大学院 歯学博士
 ハルビン医科大学 教授
 大塚医科大学 教授
 ナイロ・ジャパン株式会社 CEO

PIEZO mechanism

ピエゾ・エレクトリックデバイスの臨床応用範囲は広く、インプラント臨床をはじめ、歯科臨床において現在最も注目されている機器のひとつといえるでしょう。安全且つ最小侵襲理念を徹底できる強力なツールとして、今までの歯科常識を転覆し、難しいケースも一般開業医が簡単に克服できるようになります。ラテラルサイナスリフトの新しい骨開窓方法、ソケットリフトの革命といえるHPISE、今までは不可能だった狭窄歯槽骨でのリッジブリッジング、それ以外でもサンドウィッチテクニック、自家骨採取などさまざまな口腔治療に応用できます。しかし一方で、「なぜ硬組織だけを選択的に切削できるのか?」「なぜ安全な外科手術が可能なのか?」「どのような処置ができるのか?」「どのようなケースに適しているのか?」などの疑問を抱いている先生方も多いのではないかと思います。

本講演会では、ピエゾ・エレクトリックデバイス「サージボーン」の基本的なメカニズムを理解すると共に、実際の臨床応用例を挙げながら、その適用症例や各種テクニック、そして臨床における有用性を徹底解析していきます。また、増殖因子を豊富に含んでいる自己フィブリンゲルCGFを併用することで、ノングラフトサイナスリフトなどの斬新な理念と技術を紹介し、ピエゾ・エレクトリックデバイスにご興味をお持ちの先生には、ぜひご参加されてピエゾのすべてにふれていただければと思います。

受講料

- 歯科医師 / 20,000円
- 日本ピエゾ臨床研究会会員 / 10,000円
- スタッフ / 10,000円

※いずれも消費税、昼食込
 ※駐車場等、近隣に関する情報は、直接会場にお問合せください。
 ※会場内でのビデオ撮影、音声録音、フラッシュ撮影は禁止させていただきます。
 ※カメラによる静止画像撮影は可能ですが、シャッター音は禁止させていただきます。

お申し込み方法

- ① 参加受講申込書にご記入の上、当社までFAXでお申し込みください。
- ② 受講料は下記の銀行口座宛にお振込みください。
- ③ お申込み後、入金を確認した段階で登録完了となります。
- ④ 登録完了後、受講票をお送りいたします。

受講料お振込先

 三井住友銀行 麹町支店 普通 982103
 口座名: カルシテックインターナショナル

お問い合わせ先

 株式会社 白 鵬 研修会事務局
 〒102-0083 東京都千代田区麹町1-3-23
 TEL.03-3265-6385/FAX.03-3221-6304

ピエゾのメカニズムを徹底解析 東京 2011.7/24(日) 参加受講申込書

ご記入の上、03-3221-6304までFAXにてご送信ください。

フリガナ 氏 名	ご住所 〒	日本ピエゾ臨床研究会 <input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 非会員
<input type="checkbox"/> DR <input type="checkbox"/> DT <input type="checkbox"/> DH <input type="checkbox"/> DA <input type="checkbox"/> 受付 <input type="checkbox"/> その他	TEL.	営業担当
医院名	FAX.	

お客様の個人情報は、当社の個人情報保護ポリシーに基づき厳重に管理いたします。当社の個人情報保護ポリシーについては、当社ホームページをご覧ください。

 このご案内状は、弊社ホームページでもご覧いただけます。 株式会社白鵬ホームページ www.hakuho-d.com/

何ができるのか? どうして安全なのか?

ピエゾのメカニズムを徹底解析

ピエゾ・エレクトリックデバイス「サージボーン」を使用した各種テクニック



日本ピエゾ臨床研究会・協賛 講演会

●コーディネーター

SHOHEI KASUGAI

春日井 昇平



●講演内容



Sohn Dong-Seok
(DDS, PhD)

通訳: 黄 炳珍
Bingzhen Huang

CGF(濃縮成長因子自己血由来)のみを用いたサイナス オグメンテーション

高度に萎縮した上顎洞部に対する歯科用インプラントを用いた口腔機能回復においては、適切なインプラントの埋入に必要な骨量が確保できないことも多い。そのようなケースに対しては、上顎洞へ上顎洞側壁からアプローチ(ラテラルウィンドウアプローチ)、あるいは歯槽頂部からアプローチ(クレスタルアプローチ)して上顎洞底粘膜を挙上し、その挙上スペースに骨移植材を挿入してインプラント埋入部の垂直的な骨量を増大させる上顎洞底挙上術が一般的に広く応用されている。しかし、使用する骨移植材によっては手術時間が長くなる場合や、結果として患者の治療費までが高くなることも少なくない。また、上顎洞底粘膜の挙上スペースに填入された骨移植材に術後感染が生じたという報告もあり、逆に新生骨の形成を阻害する結果につながることも指摘されている。近年では、上顎洞底挙上スペースに骨移植材を填入しない方が、その後の骨再生とインテグレーション獲得において良好な結果を示すという研究結果も報告されるようになってきた。骨移植材を使用しないということは、術後感染のリスクも小さくなるということである。本講演では、骨移植材を使用しない上顎洞底挙上術として、上顎洞の挙上スペースに患者の自己静脈血のみを満たしたケース、吸収性ゼラチンスポンジのみを填入したケース、そして自己血から濃縮した成長因子をさらに自己血由来のフィブリンでブロック化したものを填入したケースを報告し、その臨床結果を紹介する。

自己フィブリンに富んだブロック状のCGFは、2006年にDr. Saccoによって組織再生を加速させると報告された。CGFが上顎洞底部の骨増生に及ぼす影響をラテラルウィンドウアプローチとクレスタルアプローチとの比較を交えながら検証したい。

講演の主なポイント

- ① CGFのみを用いた上顎洞底部における新生骨形成のメカニズムと予知性 ー 臨床的・放射線学的・組織学的検証 ー
- ② CGFのみを用いたハイドロリック・ピエゾ・インターナル・サイナスエレベーション(HPISE)
- ③ 組織再生を目的としたCGFの様々な応用症例



YOSHIAKI HASEGAWA
長谷川 嘉昭

歯周組織再建へのマテリアル

歯周組織を再生させ、咬合の機能回復を再構築する現在の歯科臨床には、材料を含め、マテリアルの選択が非常に重要になった。特に、インプラント治療における上顎洞底挙上術においては、術式が多岐にわたり、どれを選択するべきなのか悩まれる方も多いと思う。

歯槽頂アプローチによる上顎洞底挙上術を選択した場合、最も基本的な術式は、オステオトームテクニックであるが、テクニックセンシティブなため、洞内粘膜穿孔等の偶発症も多いと聞く。さらに、歯周病が原因による欠損症例では、頻りに十分な角化粘膜が存在しないため、インプラント埋入後の軟組織の移植が必要不可欠となる症例も多い。

そこで、今回の講演では、近年注目されているピエゾエレクトリックデバイスと自己血由来の成長因子(CGF)に焦点をあて、臨床応用した症例を供覧して、私見を述べてみたい。



YOSHIRO IIDA
飯田 吉郎

ピエゾ&CGF、その効果的な利用法を探る

組織へのダメージを最小限に抑えることができるピエゾ・エレクトリックデバイスと、創傷治癒を早め組織再生を促す成長因子を豊富に含んだCGFは、インプラント外科から日常の小外科まで幅広く応用が可能で、いまや欠くことのできないツールになってきています。

それらを開業医としてどのような場面でどのように活用できるか、症例を交えて検討していきたいと思います。



SEIBUN TOKUYAMA
洪(徳山) 性文

臨床の中での「サージボーン」の応用とCGFからAFGへ サイナスアプローチの新しい取り組み

私自身、2年前から使用している「サージボーン」は現在なくてはならない器械になっている。従来、一般開業医において踏み込めなかった外科的侵襲の大きいアドバンスなオペも「サージボーン」を用いることによって低侵襲で安心・安全に行えるようになった。そのなかで今回、私が臨床で多用しているスプリットクレスト、インプラントホルの形成とサイナスアプローチ法についての臨床ケースを通して説明したいと思います。

また、サイナスアプローチにおいては、骨移植材としてCGFのみを用いたサイナスアプローチの組織学的検証と最近よく行っているラテラルとクレスタルの利点を融合したHybrid Sinus Approach テクニックについて、またAFG(Autologous Fibrin Glue)を用いたより安全なクレスタルアプローチ法についてお話しします。